

公立義務教育諸学校の学級規模及び教職員配置の
適正化に関する検討会議（第 1 3 回）

討議補足資料

- ・ 新しい学びへの対応について……………P1
- ・ 少人数学級・少人数指導の選択制等実施状況について……………P3
- ・ 少人数指導等を実施している実施校の割合……………P8
- ・ 公立義務教育諸学校の基礎定数と加配定数の推移……………P9

新しい学びへの対応について

- 国内外の学力調査の結果等から、我が国の子どもたちは、知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等に特に課題がある。
- これを踏まえ、新学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、思考力・判断力・表現力等を育成するため、特定の教科に限らず学校の教育活動全体を通じて、観察・実験やレポートの作成、論述等の知識・技能を活用する学習活動を充実。
- そのためには、従来の一斉指導の方法のみならず、プレゼンテーションやディベート、対話・討論等のグループ学習などを通じた言語活動や体験活動、ICTの積極的な活用をはじめとする指導方法・指導体制の工夫改善により、協働型・双方向型の授業革新を推進する必要。

【参考】思考力・判断力・表現力等を育む学習活動について

中央教育審議会答申において、思考力・判断力・表現力等を育成するために重要であるとして、以下①～⑥の学習活動を例示。各教科の教育内容として、記録、要約、説明、論述、討論といった学習活動に取り組むことが必要。

【思考力・判断力・表現力等を育む学習活動の例】

① 体験から感じ取ったことを表現する

(例) ・ 日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する

② 事実を正確に理解し伝達する

(例) ・ 身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する

③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

(例) ・ 需要、供給などの概念で価格の変動を捉えて生産活動や消費活動に生かす
・ 衣食住や健康・安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する

④ 情報を分析・評価し、論述する

(例) ・ 学習や生活上の課題について、事柄を比較する、分類する、関連付けるなど考えるための技法を活用し、課題を整理する
・ 文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめて、A4・1枚(1000字程度)といった所与の条件の中で表現する
・ 自然事象や社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり、これらを用いて分かりやすく表現したりする
・ 自国や他国の歴史・文化・社会などについて調べ、分析したことを論述する

⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する

(例) ・ 理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする
・ 芸術表現やものづくり等において、構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫・改善する

⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

(例) ・ 予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を話しながら考えを深め合う
・ 将来の予測に関する問題などにおいて、問答やディベートの形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる

少人数学級・少人数指導の選択制等実施状況(平成23年度)

○＝少人数学級への活用分として市町村に配分を行ったうえで、市町村の判断で少人数指導を実施することを認めている県 29県

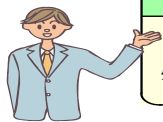
	選択制等の実施の有無	備考
北海道	○	
青森県		
岩手県	○	中学校1年生で実施。
宮城県	○	
秋田県		教室不足に限り、チーム・ティーチングを認めている。
山形県		
福島県	○	小学校3～6年生、中学校2～3年生で実施。
茨城県		教室不足があれば、少人数指導の活用も検討する。
栃木県		
群馬県		
埼玉県	○	小学校2年生、中学校1年生で実施。
千葉県	○	小学校2～6年生、中学校1～3年生で実施。
東京都	○	小学校2年生、中学校1年生で実施。
神奈川県	○	小学校2～6年生、中学校1～3年生で実施。
新潟県	○	小学校3～6年生、中学校1～3年生で実施。 基本的には、少人数指導・チーム・ティーチングを実施し、市町村教育委員会から要望があれば、少人数学級も認めている。
富山県	○	中学校1年生で実施。
石川県	○	教室不足のためチーム・ティーチングを実施した例はある。
福井県	○	小学校5～6年生、中学校1～3年生で実施。
山梨県	○	
岐阜県		
静岡県	○	小学校5～6年生、中学校1～3年生で実施。
愛知県	○	
三重県	○	中学校1年生で実施。 小学校1～2年生について、原則、学級編制を実施し、市町教育委員会からの要望に応じて少人数指導も認めている。
滋賀県	○	小学校4～6年生で実施。

※:少人数指導には、チーム・ティーチングを含む。

京都府	○	小学校1～6年生、中学校1～3年生で実施。
大阪府		
兵庫県	○	
奈良県	○	小学校1～6年生、中学校1～3年生で実施。
和歌山県	○	
鳥取県		教室不足のため少人数指導を実施した例はある。
島根県	○	小学校1～2年生で実施。
岡山県	○	小学校5～6年生、中学校1～3年生で実施。 ただし、中学校の5学級以上は、少人数学級のみ実施。
広島県		
山口県		
徳島県		
香川県	○	小学校4～6年生、中学校1～3年生で実施。 基本的には、少人数指導・チーム・ティーチングを実施し、市町村教育委員会から要望があれば、少人数学級も認めている。
愛媛県		
高知県	○	
福岡県	○	小学校2～6年生、中学校1～3年生で実施。
佐賀県	○	小学校2年生、中学校1年生で実施。
長崎県		教室不足のため少人数指導を実施した例はある。
熊本県		
大分県		
宮崎県	○	
鹿児島県		
沖縄県		

学級編制の弾力化の取組み(京都市教育委員会)①

30人程度学級が可能な定数配置



国の加配定数を活用するとともに、京都府の独自措置として定数措置を行い、小中学校において30人程度の学級編制が可能となる定数を配置

市町村に一括配当・市町村が自由裁量で活用、手法を選択



- ◆ 教員定数の配当を学校ごとから市町村ごとに変更し、市町村に一括して総定数を配当
- ◆ 市町村は、一括して配当された定数を市町村の自由裁量により所管する学校に配置
- ◆ 各市町村教育委員会（学校）は、府教委から配当された定数を活用し、学校や児童生徒の状況に応じて、少人数授業、チームティーチング（TT）、少人数学級の3手法から選択して少人数教育を展開



手法を選択

少人数授業

児童生徒を習熟度別・課題別なグループで指導

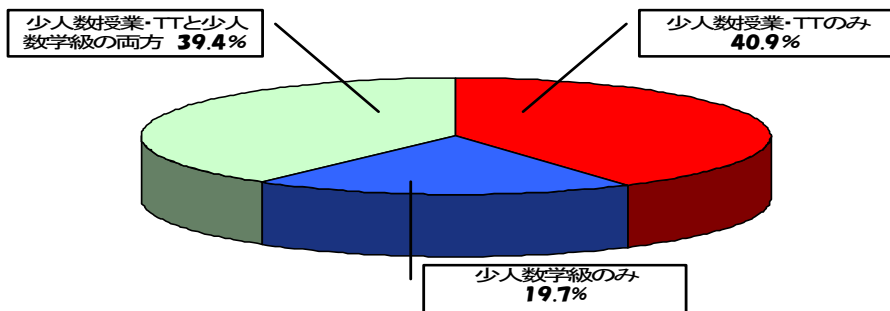
チームティーチング

1学級に2人の教員が入り、連携して授業を展開

少人数学級

40人未満の人数で学級を編制

手法選択した学校数の割合(平成23年度)



※少人数学級19.7%の内、約半数は少人数授業等も実施している。

○市町村教育委員会は、子どもや地域・学校の状況を踏まえ、主体的かつ弾力的な教員配置が可能

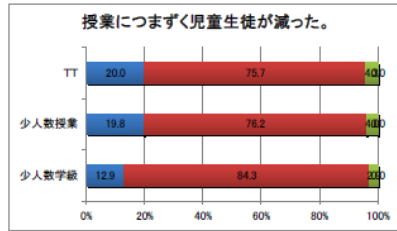
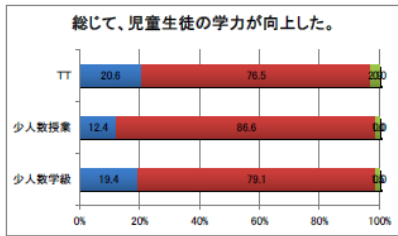
○学校の実情に応じた少人数教育の手法を選択することで、学年の特性や児童生徒の発達段階に即した指導方法・体制が整備できる。

学級編制の弾力化の取組み(京都府教育委員会)②

学力向上には、少人数教育いずれの方法も効果的。基礎学力の定着には、ティームティーチングや少人数授業が特に効果的

■ とてもそうだ ■ ややそうだ ■ あまりそうでない ■ まったくそうでない

学 力

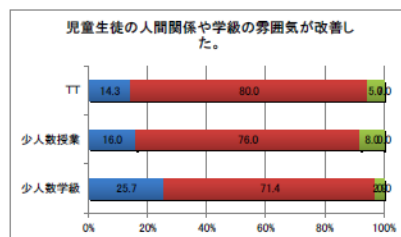
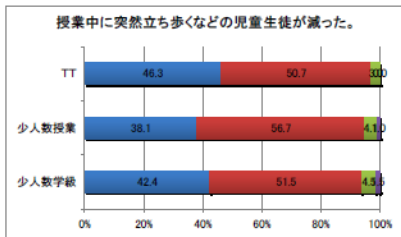


<ポイント>

- ◆いずれの方法も学力向上には効果的。
- ◆基礎学力の定着には、TTや少人数授業が特に効果的。

学習規律の確立には少人数教育いずれの方法も効果的。学級経営上は少人数学級が特に効果的

生徒指導



<ポイント>

- ◆学習規律の確立には少人数教育の取組が特に効果的。
- ◆学級経営上は、生活集団の規模が小さい少人数学級が特に効果的。

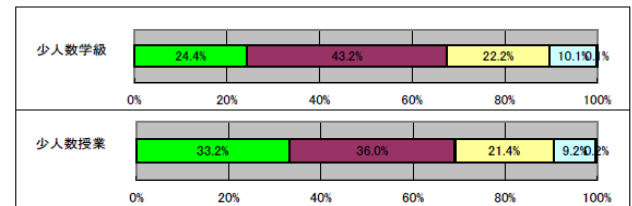
少人数学級、少人数授業ともに児童から高い評価

○小学校児童の意見(平成21年度実施)

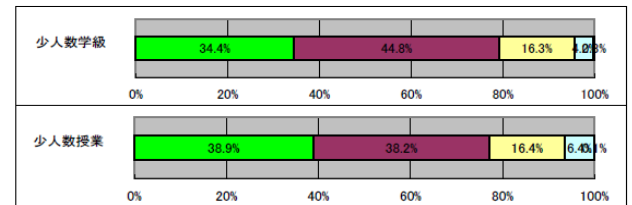
- ・どちらの方法においても、約8割の児童が「授業がよくわかる」と回答
- ・「少人数授業」の方が「授業が楽しい」、「勉強にやる気が出る」と感じている割合が高い

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまり思わない ■ そう思わない ■ 無記入

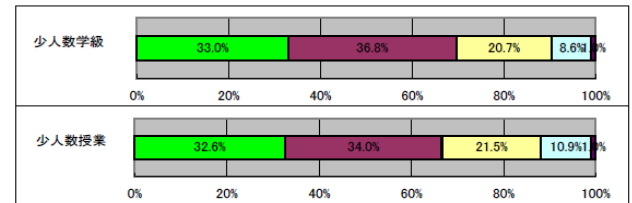
1. 授業が楽しい



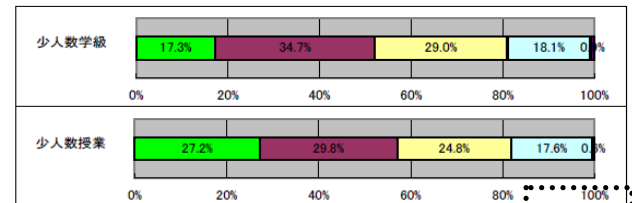
2. 授業がよくわかる



3. ていねいに教えてもらえる



4. 勉強にやる気が出る



学級編制の弾力化の取組み(兵庫県教育委員会)

◎兵庫県・新学習システムについて

- 小学校 1・2年生:35人学級編制・複数担任制の実施 (H23年～基礎定数)
- 小学校 3・4年生:35人学級編制・少人数学習集団の実施
- 小学校 5・6年生:少人数学習集団の実施、兵庫型教科担任制の実践研究
- 中学校 全学年:少人数学習集団によるきめ細かな指導の推進

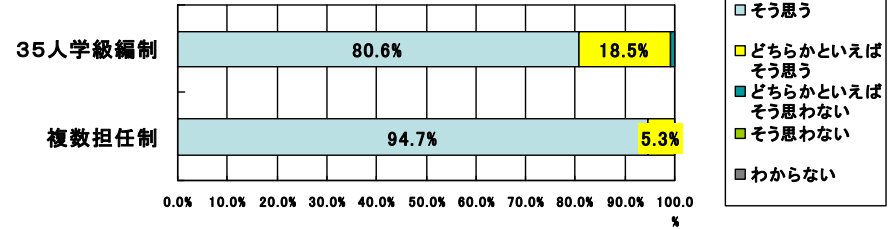
16年度(1年生)から順次導入、20年度に小学校4年生まで35人学級導入(指導方法の工夫改善定数等を活用)

区分	全学校数	35人学級編制等の選択状況			
		対象校数 A(B+C)	35人編制を選択実施		複数担任制・少人数学習を実施 C
			校数 B	実施率 B/A	
1年生	792校	164校	163校	99.4%	1校
2年生		168校	151校	89.9%	17校
3年生		191校	169校	88.5%	22校
4年生		181校	148校	81.8%	33校

学習面でのつまずきのある児童への素早い対応は複数担任制が、入学当初の児童の心の安定など一人一人に応じた生活指導については少人数学級の評価が高い

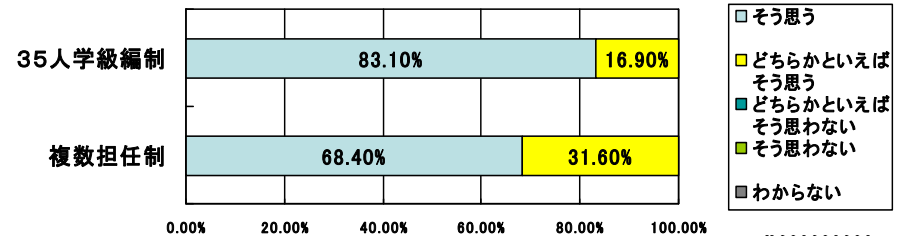
学習面でのつまずきのある児童に素早く対応ができるかについて、「そう思う」と回答している割合は「複数担任制」が「35人学級編制」より14.1ポイント高い

・「学習面でのつまずきのある児童に素早く対応ができるか」



入学当初の児童の心の安定など、一人ひとりに応じた生活指導ができるかについて、「そう思う」と回答している割合は「35人学級編制」が「複数担任制」より14.7ポイント高い

・「入学当初の児童の心の安定など、一人ひとりに応じた生活指導ができるか」



静岡県教育委員会の取組の概要

静岡式35人学級編制の特徴

1. 段階的に拡充
平成25年度を目途に全学年で実施
2. 学級編制の選択が可能
学校の実情に応じて40人学級編制も可能
3. 学級編制の下限を設定
25人を下回る学級は編制しない

平成22年度

平成23年度

	35人	40人
小5		
小6	84%	16%
中1	92%	8%
中2	89%	11%
中3	87%	13%

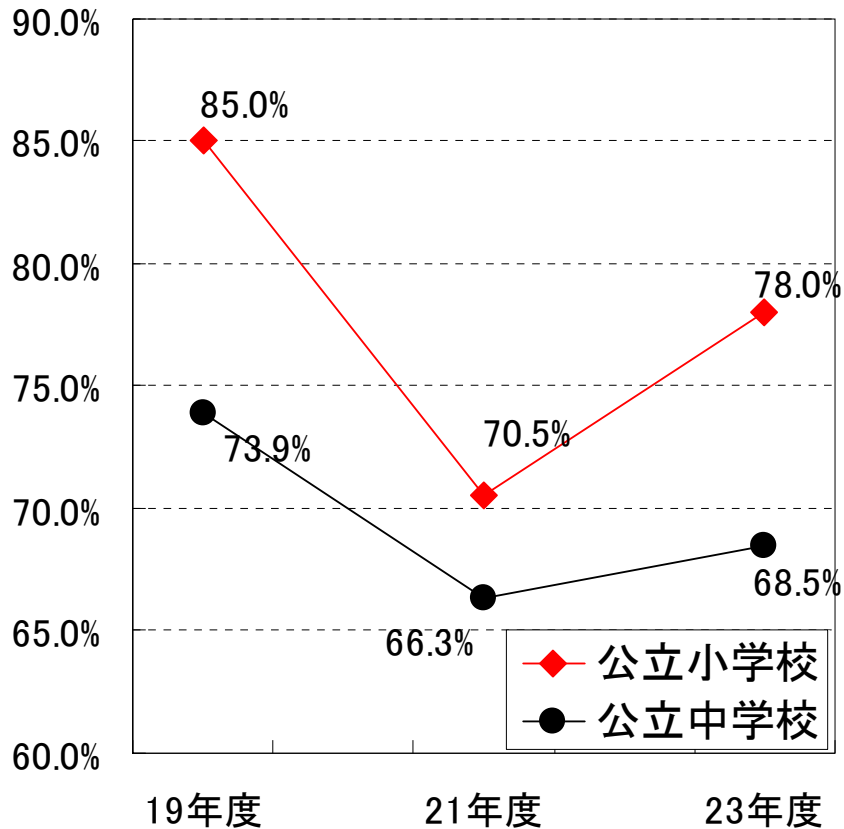
	35人	40人
小5	87%	13%
小6	92%	8%
中1	90%	10%
中2	93%	7%
中3	87%	13%

三重県教育委員会の取組の概要

		少人数学級	少人数指導
小学校	1年	30人学級（下限25人）	31人以上の学級で国語、算数の少人数授業ができるよう定数、非常勤講師を配置
	2年	30人学級（下限25人）	
	3年	市町教委、各学校への配置定数を活用して少人数学級の編制が可能	
	4年		
	5年		
	6年		
中学校	1年	35人学級（下限25人）：2、3年への転用可	36人以上の学級で国語、数学、英語の少人数授業ができるよう定数、非常勤講師を配置
	2年	市町教委、各学校への配置定数を活用して少人数学級の編制が可能	
	3年		

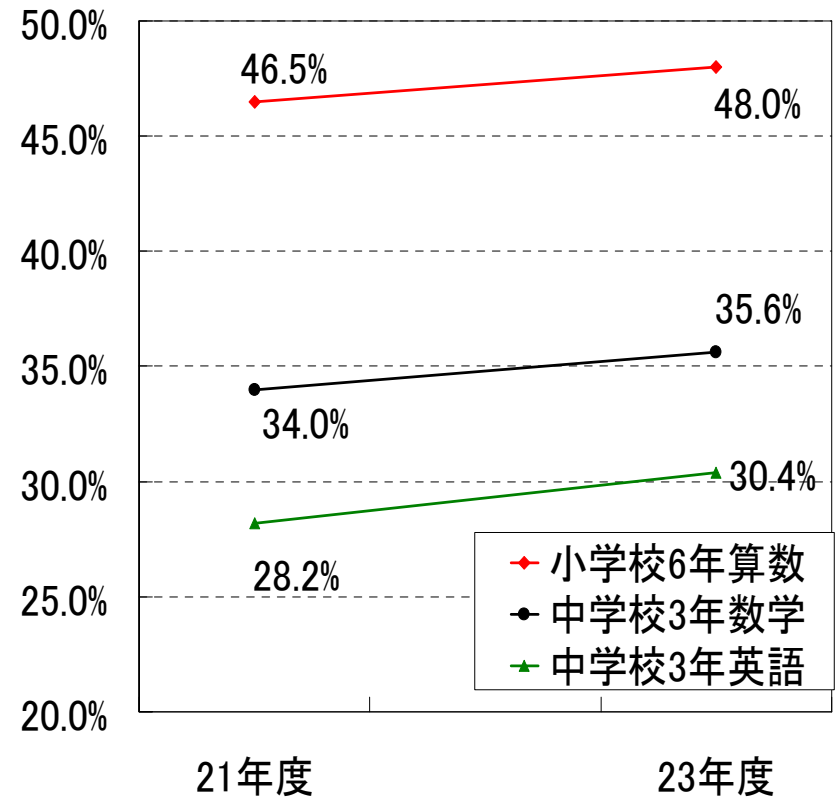
少人数指導等を実施している実施校の割合

習熟度別少人数指導等の実施校の割合



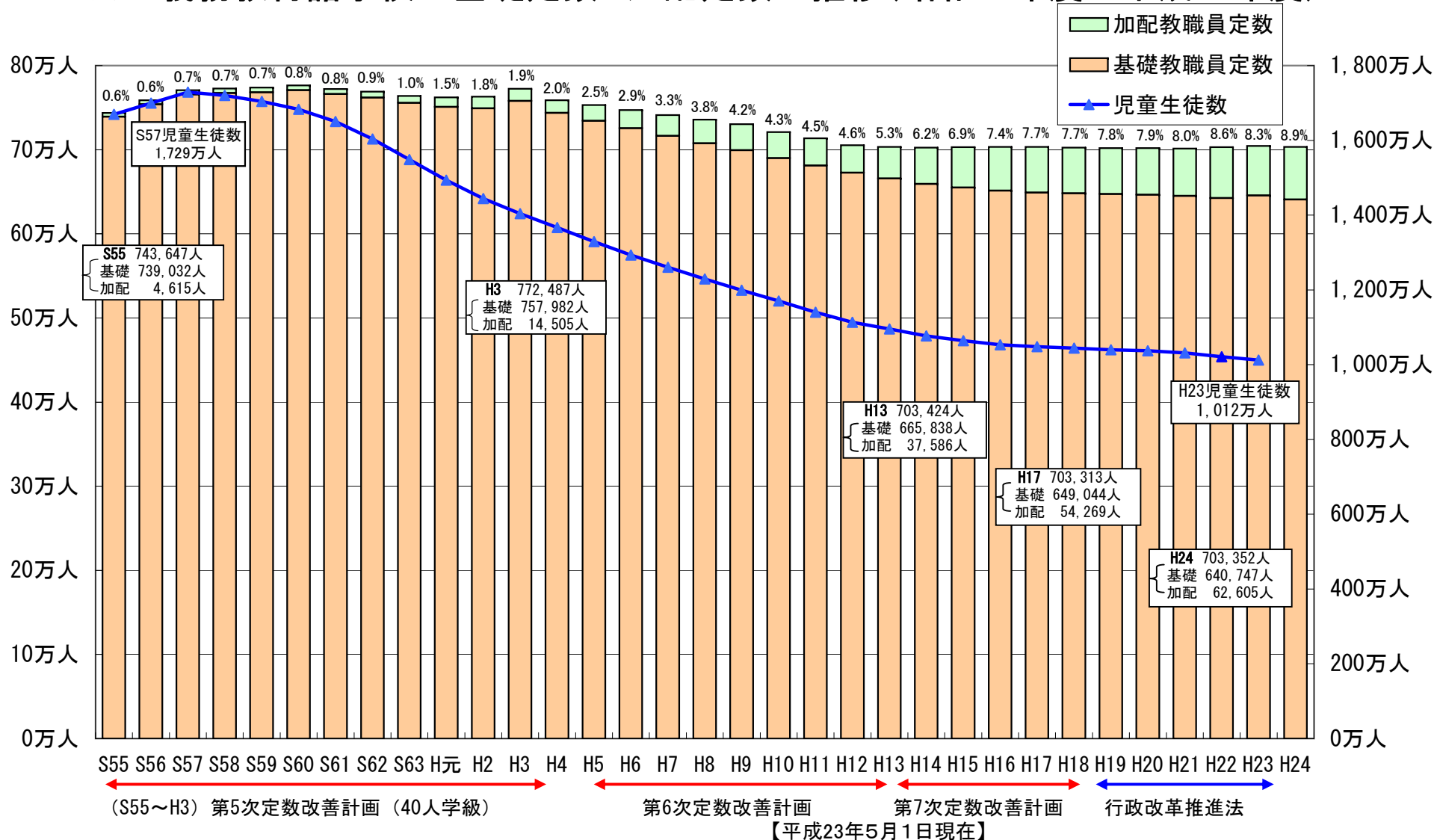
※ 数値は、公立小・中学校のうち、児童生徒の理解や習熟の程度に応じた指導を実施している学校の割合である。

チームティーチング等の実施校の割合 (学年、教科別)



※ 数値は、1学級を単位とし、学習集団を分けずに複数の教師が協力して指導するものその他、1学級を単位とし、一人の教師が、個人や学習集団によって異なる課題等を与えるなどの指導を行う場合等

公立義務教育諸学校の基礎定数と加配定数の推移(昭和55年度～平成24年度)



	小学校	中学校
教員数(教諭のみ)	33万人	20万人
うち学級担任	27万人	12万人
うち学級担任外	6万人	8万人

※基礎教職員定数には、有給休職者・産休代替者等を含む。